

国語教育相談室

小学校
no.
86

光村図書

特集 説明文の教材研究

わたし
ことば 小賢しい坊主 ミムラ

書写 「原理・原則」
発見型授業

国語
指導 ノート指導は
板書から！

平成28年度用教科書
取り扱い内容の異動

平成28年度用教科書
訂正箇所

2015, いっしょにはじめませんか。
これからの学び。



学びの限らない未来をひらく。
光村図書のデジタル教科書。

体験版はホームページよりダウンロードできます。
www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

小学校
指導者用

平成27年度版小学校教科書準拠

CoNETS 版
デジタル教科書

小学校
学習者用

「国語デジタル教科書」

光村「国語デジタル教科書」1～6年

DVD版 各72,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「書写デジタル教科書」1～6年

DVD版 各21,000円＋税
ダウンロード版 各7,000円＋税

光村「社会デジタル教科書」5年 6年

DVD版 各72,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「せいかつデジタル教科書」上下巻

DVD版 60,000円＋税
ダウンロード版 20,000円＋税

DVD版 使用期間は、平成27年度版教科書の
使用期間内です。

ダウンロード版 1年単位でのご使用も可能となりました。
使用期間は、左記期間内の1年間です。

※指導者用デジタル教科書は学校フリーライセンスです。学校フリーライセンスとは、
校内でご利用になる指導者用パソコンの台数を制限しない契約です。



ともに学ぶ授業に

伝え合う力が
身につく授業に

個に応じた授業に

ご好評をいただいている指導者用と共に、
平成27年度版として現在開発中!!

商品の情報につきましてはホームページにて
随時公開予定です。



光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.166 2015(平成27)年9月9日発行

発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝協和オフセット印刷株式会社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。



女優 ミムラ

小賢しい坊主

幼少の頃、私の思考世界のポケットはいつもはち切れんばかりだった。中身は、いつか使ってみたいとあちこちから集めてきた言葉達。

末っ子という言葉拙い立場に因る、発言を蔑ろにされがちな境遇。これを打破するために、少しでも大人っぽい言葉遣いがしたかった。そこで図書館や近所の大人達から集めた言葉を、すぐに使えるようにスタンバイ。闇雲に使うのでは逆に馬鹿にされるので、意味をがっちりと捉えたタイミングで解き放ってやりたいと、幼い私は爪先立ちでウズウズしていた。言葉選びは楽しい遊びでもあった。

そんな七才の正月。年賀状が昼近くになつても届かず、どうしたのだろうと家族で心配していた。窓からポストの方を見ると、だから、としか言いようのないスピードで、お疲れ顔のアルバイト配達員が内股で坂道を上がってきた。来たよ！と声をかけ、集まった姉や父と窓越しに凝視していると、その視線に気付いた内股君は急に顔立ちも凛々しくキビキビ動き、真面目な顔で我が家のポストに投函、颯爽と去っていった。

ポケットにびつたりの言葉があると気付いた私は、ヨシ今だ！と鼻息荒く繰り出した。

「小賢しい坊主、だね」

一瞬の沈黙の後、家族は大爆笑。言葉には意味とタイミングだけでなくキャラクターがあり、それが使用者とかけ離れると可笑しい、という理解のなかった私はきよんとした。

今でも使ってみたい言葉は多々あるが、ポケットではなく引き出しに、誤用しないようカテゴリー分けしてしまっている。また、役者をやっていてさらに得た感覚としては、言葉には骨格があるということだ。例えば時代劇で高い身分の奥方を演じるとなると、私生活の会話でも夫への敬語が自然と増える。猫背で「はい、わかったあ」なんて言っている人間には、しゃんとして「仰せ、かしこまってございます」なんて言葉は遣いこなせない。口真似しただけではぎこちなさが漂い、滑稽に映ってしまうはずだ。

骨格を掴み、それを使いこなす筋力（普段の言葉遣い）の支えを得れば、言葉は真の力を発揮する。まさに「小賢しい小娘」だった当時の私がこれを知ったら、きっと目を輝かせるだろう。

言葉選びは、今でもお気に入りの遊びである。



1984年、埼玉県生まれ。2003年、ドラマ「ビギナー」でデビュー後、テレビ・映画・舞台など多方面で活躍。雑誌や新聞などでの執筆活動も行う。著書に、自身の読書経験・読書生活を生かした『ミムラの読本日和』『ミムラの読本散歩』（ともに白泉社）、近著に10年以上の出演作全てについて130ページあまりを書きおろした『文集』（SDP）がある。

CONTENTS

わたしとことば 小賢しい坊主 ————— ミムラ

特集 02 説明文の教材研究

はじめに・教材分析・授業化・授業リポート ————— 青山由紀

教材研究で、より深い学びを ————— 高木まさき

デジタル教科書を使いこなそう 4 12 単元の導入で、子どもを揺さぶる ————— 佐藤幸江

子どもたちを「書写好き」に 5 16 「原理・原則」発見型授業 ————— 藤井浩治

なるほど国語指導 4 20 ノート指導は板書から！ ————— 作・画／あべかよこ
監修／興水かおり

24 教科書の改訂に伴う取り扱い内容の異動に関する資料
—— 4年「ことわざ・故事成語」

国語・書写 平成28年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

説明文の 教材研究

教材研究では、
どのような方法で、
何に着目すればよいのでしょうか。
筑波大学附属小学校の
青山由紀先生による
「すがたをかえる大豆」(三年下)
の教材研究と授業レポート、
そして、横浜国立大学の
高木まさき先生からのお話をもとに、
説明文の教材研究で重要なこと、
その意義について考えます。



教材研究の進め方、始める前に押さえておくべきことなどについて、
青山先生にお話を伺いました。

撮影：鈴木俊介

1 「教材分析」と「授業化」

教材研究と聞くと、なんとなく「教材を研究する」ことがイメージされます。教材についての知識・理解を深める。これも、もちろん教材研究に含まれます。でも、それが教材研究の全てではないでしょう。

私は、教材研究には、二つのステップがあると考えています。一つは、教材を読み解き、その内容や意図について理解する「教材分析」のステップ。そしてもう一つは、それをもとにしながら子どもの実態に合わせて授業を組み立てる「授業化」のステップです。このように分けて考えると、それぞれの段階ですべきことがはっきりしてきます。

今回は、この考え方に沿って、「教材分析」↓「授業化」というステップを踏みながら、説明的な文章「すがたをかえる大豆」(三年下)の教材研究に取り組んでみたいと思います。

2 教材分析をする前に

「では早速、教材分析へ」と言いたいところですが、その前に、ここで押さえるべき指導事項や学習内容と、教材の位置づけを確認します。このとき、単元冒頭の単元名・リード文が参考になります。

●押さえるべきこと

中学年の「読むこと(説明文)」で主に身につけさせたいのは、「まとまりを捉える」ということ。それをさらに細分化すると、三年では、
・「初め・中・終わり」を捉える。
・中心となる語や文を捉える。
という力をしっかりと身につけさせたいので、そのことを念頭に置いたうえで、教材を読んでいきます。

●教材の位置づけ

「読むこと(説明文)」単元での既習の内容を確認して、本単元で生かし、深められることを明確にします。前の単元の第二教



あおやま ゆき
青山由紀

東京都生まれ。筑波大学大学院修士課程修了。全国国語授業研究会常任理事。使える授業ベーシック研究会常任理事。著書に『古典が好きになる』(光村図書)、『板書 きれいで読みやすい字を書くコツ』(ナツメ社/樋口咲子共著)など。光村図書小学校『国語』教科書編集委員。

材「こまを楽しむ」は、
・「問い」と「答え」がある。
・「中」で事例が列挙されている。
という説明文。事例については、他のこまと「曲ごま」「ずぐり」との、質の違いには気づくことができました。そこからの流れを意識して、授業を組み立てます。
加えて、教科書では本教材の後に「食べ物」のひみつを教えます」という「書くこと」の教材が位置づけられています。より効果的に学習できるよう、今回はこれと本教材を一単元として構成し、「食材について説明する文章を書く」という言語活動のもと、本教材を読むことにします。

押さえるべき指導事項や学習内容、教材の位置づけを念頭に置いたうえで、教材を詳しく読みながら、その特徴を捉えていきます。

① 単元のねらいを確かめる

まず初めに、単元名・リード文を読みます。ここで単元のねらいを確かめ、それを念頭に置いたうえで教材分析に入ります。

② 題名読みをしてみる

本文の教材分析の前に、必ず教師自身が「題名読み」をしてみます。「もし、授業で題名読みをしたら」と考えながら、題名に疑問詞を入れて問いを立ててみるのです。今回は「何に姿を変えるのか」「どのようにして姿を変えるのか」「なぜ姿を変えるのか」「いくつに姿を変えるのか」の四つの問いができました。これは、文章のどこにどのような「問いの文」を入れたらよいのかを考えさせるための導入として使えそうです。

題名と本文との関係については、本文の教材分析をひととおり終えた後に考えます(⑫)。

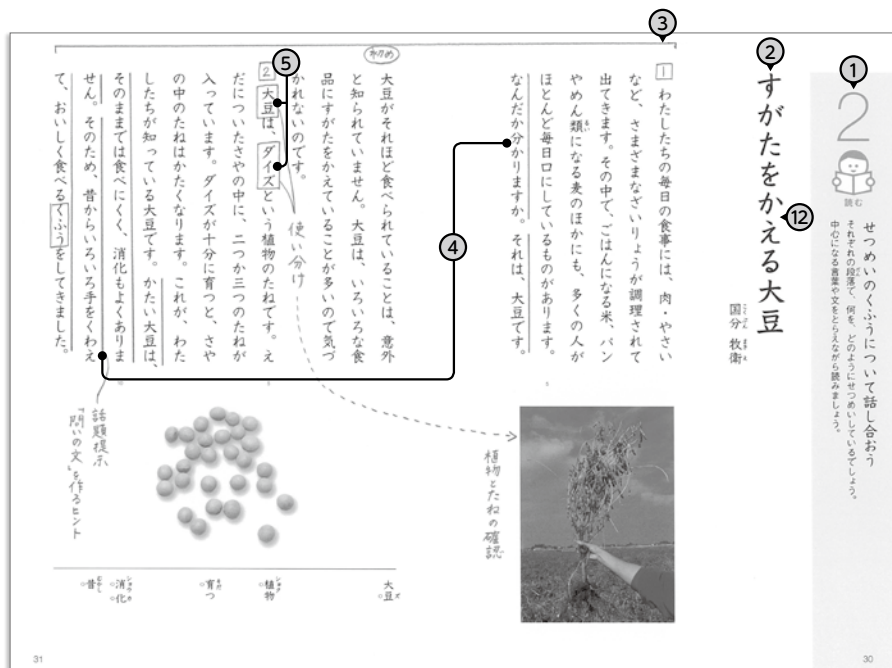
⑥ 「中」の事例を読む

第二段落の話題提示を受けて、「くふう」と食品名に印を付けながら「中」のまとまりを読んでいきます。それにより、

- ・「中」には、段落ごとに「くふう」(事例)が書かれている。
- ・各段落の一文目に「くふう」(段落の中心となる文)が書かれている。
- ・段落初めのつなぎ言葉に、事例の順序性が見える。
- ・段落を追うごとに、作り方を説明する部分が長くなる。

という点が見えてきました。「くふう」や食品名に着目させると、「中」の段落がはつきりするため、「初め・中・終わり」を意識させることができそうです。

さらに、「中」の事例が、大豆の姿に近い順、作り方が簡単な順、作るのに時間がかからない順といった順序で並んでいることも分かります。これらは、説明の工夫として、子どもたちに気づかせたいことです。



③ まとまりに分ける

段落番号を振りながら本文を一読し、文章全体を「初め・中・終わり」のまとまりに分けます。

④ 話題提示を見つける

文章の話題提示となる文を確認します。第一段落の疑問文を、その文末から「問いの文」と捉えることも予想されます。この一文を使って、「問いの文とは、文章を通して筆者が伝えたいことの予告編」だと押さえることができるはずです。第二段落最後の一文は、「問いの文」を作らせるヒントとなります。

⑤ 注意したい言葉1

子どもが見過ごしそうな言葉には注意します。漢字と片仮名の使い分けは、音読では気づきにくいので、確認が必要です。その際、教科書P30の写真が使えそうです。

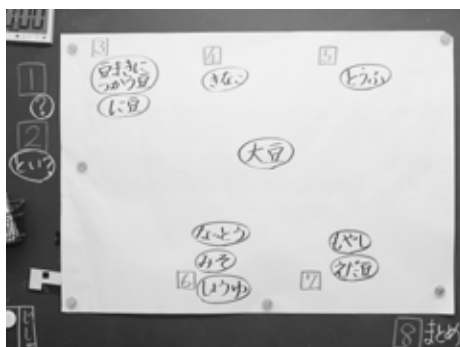
⑦ 語彙学習

「炒る」「煮る」など、たびたび出てくる調理に使う言葉については、必要に応じて意味を押さえ、語彙学習に展開してもよさそうです。

⑧ 写真と文章の対応を見る

「中」での写真の使われ方について考えます。基本的には、食品名と一対一対応で、食品の写真が添えられています。ただ、第五段落の「とうふ」の写真のみ、作り方の写真を加えた三枚セットになっています。いっぽう、それに対応する文章では作り方が詳しく書かれています。そのことと関連づけて、「文章だけでは分かりづらいから写真が使われている」と、子どもたちと確認することができそうです。

あるいは、「にがり」の意味を確認する、「とうふ」の作り方が読み取れているかどうか確認するという目的で、この写真を使ってもいいかもしれません。



上/最後に模造紙の左横に1・2、右下に8と書いて、文章のまとまりを俯瞰できるようにする。
右/デジタル教科書の画面を指さしながら、食品名を答える児童。全員の視線が、画面に集中する。

指導計画(全6時)

時	学習活動
1	・題名から「問い」を作り、内容に興味をもつ。 ・全文通読し、大豆が姿を変えた食品名に印を付ける。 ・調理の言葉に興味をもち、調べる。
2	・全文通読後、印を付けた食品名を発表する。 ・食品名をマップ状にまとめる。 ・全体構成(初め・中・終わり)を捉える。
3	・「初め」の第1・2段落の内容(大豆とダイズの違い)を読み取り、それぞれの段落の役割を理解する。 ・「中」の事例が「工夫」で整理されていることを理解し、第3・4段落の事例の内容を読み取る。
4	・第5段落の事例から、作り方が書かれていることに気づく(豆腐の写真だけ3枚セットであることに着目させる)。
5	・第6・7段落の事例の内容を読み取る。 ・「これらのほかに」の事例は、大豆でなくダイズであることを理解する。 ・第8段落の「まとめ」を読み取る。
6	・事例の順序性について、根拠を明らかにしながら自分の考えを述べる。 ・つなぎ言葉の使い方を理解する。

※第3時あたりで単元後半の活動(書くこと)を提示する。

食品名を発表する

「今日は、大豆が何に姿を変えたのかを発表してもらいますよ。どんな食べ物かここに書かれていたかな」。青山先生はそう、

言って、教室前方のスクリーンにデジタル教科書を映し出した。前時、児童が自分の教科書に印を付けた食品を発表させ、全体で共有するところからのスタートだ。
児童の手が元氣よく挙がる。その様子か、

ら、自分が見つけた食品を発表したいという強い気持ちがあがえる。指名されたら前に出て、デジタル教科書を指さしながら食品名を答える。先生はそれに合わせて、画面上に緑色の線を引いていく。九つの食品が、テンポよく確認されていく。
途中、先生は、「いる」「にる」など、調理の言葉が出てくるたびに小さな模造紙に書き留め、意味を確認していった。児童の語彙を広げ、単元後半の「書くこと」で生かそうとする意図があるのだろう。

食品名をマップで整理する

「では、みんなで、大豆が姿を変えた食べ物確かめていきましょう」と言って、青山先生が取り出したのは大きな模造紙。ここからは、大豆から作られる食品を、模造紙上のマップに整理していく。模造紙を使うのは、この後の授業でも、必要なときに貼り出して確認できるようにとの工夫だ。児童は先生が書くのに合わせて、自分のノートにマップを書き写していく。

文章に出てくる食品の順が確かめられるよう、「いちばん最初に出てきたのは何だった?」と、児童に問いかける青山先生。同時に、それが書かれている段落も確認して

いく。食品名は、デジタル教科書で使った色に合わせて、緑色の線で囲む。児童たちは、張り切って食品名と段落番号を答えていく。
そんななか、第六段落の「なつとう」「みそ」「しょうゆ」を書き入れようとした先生の手が止まった。そして、こんな言葉を投げかける。「ここは、食べ物か三つもある。二つの段落もあったね。いつでも一つの段落に一つじゃないんだ」。この後、「中」の段落が食品でなく、工夫ごとになっていることを押さえていくための意識づけをするつもりだったようだ。

しかし、それを聞いた児童たちは、口々に自分の意見を言い始めた。教室全体に活発な声があふれる。そのなかで先生は、「一つの段落に一つだと、九段落になる」という発言を取り上げ、こう返した。「九段落? 食べ物の数はいくつ? 段落の数はいくつだったかな。最後まで書いた後、数えてみますよ」。児童たちの注意は、食品と段落の数に向けられていく。

第七段落の「えだ豆」まで書き入れると、全員で模造紙を見ながら、食品数と段落数を数える。食品数は九、段落数は五。二つの数が違うことを確認した後、先生は「じゃあ、この文章は全部で五段落なんだね」と

教材研究で、より深い学びを

教材分析の段階で、子どもたちにとってのこの文章のおもしろさは、「大豆が何に姿を変えるのか」ということだと考えました。そこで、まずは食品だけを取り出してマップに整理することにしました。子どもの「知りたい」という思いに沿ったので、マップでの整理に必然性が生まれ、「教師から与えられた作業」にならずに済んだのではないかなと思っています。また、このマップは、単元後半の「書くこと」でも生かすことができます。

授業を終えて——青山先生より



調理の言葉は、貼ってはがせる「ふせん模造紙」に書いて好きなところに貼って見せられるようにしておく。

続けた。一斉に「違うー」と返す児童。「どうして違うの？」と、青山先生。一人の児童が答える。「最初の『問いの文』と、最後の『まとめ』も必要だから」。それを聞くと、先生は「初め」と「終わり」が必要なんだね」と言いながら、模造紙の外側の黒板に、一・二・八と、段落番号を書き足した（前ページ写真参照）。模造紙の部分（第三〜七段落）が「中」、その前（第一・二段落）が「初め」、その後（第八段落）が「終わり」。児童は、視覚的にもしっかりと捉え、確かめていた。

その後、第八段落が文章の「まとめ」であることを確認したうえで、「第一・二段落に『問いの文』があるのかな？ ここにはどんなことが書いてあったか、次の時間に考えていきましょう」と、青山先生。最後に、調理の言葉を書いた模造紙を見せながら、「お料理に使う言葉も、これからもっと探していこうね」と付け加えて授業は終了した。「もう見つけたよ！」という児童の言葉から、大豆が姿を変える不思議への大きな関心が感じられた。

■学習指導書のご紹介

学習指導書「『読むこと』の授業をつくる」（文学編・説明文編）では、青山由紀先生と相田萬理子先生（奈良女子大学特任教授）の教材研究の方法を紹介しています。監修は、高木まさき先生（横浜国立大学教授）。教材研究の際には、こちらもぜひご活用ください。

- ・「読むこと」の授業をつくる—文学的な文章編
- ・「読むこと」の授業をつくる—説明的な文章編

（いずれも1〜6年全1冊／本体3,500円＋税）

授業中、子どもは思わぬ発言をするものです。それが時として、授業の意図に沿わない場合だってあるでしょう。でも、子どもがそう反応するのには、何か理由があるはず。発問のしかた、あるいは教材の個性がそうさせていると考えることもできます。

授業の意図ももちろん大切ですが、子どもの反応に意味を見いだし、立ち止まって考えれば、より深い学びの世界への入り口に立つことができるかもしれません。

そう考えると、大きく分けて二つの教材研究の目的が見えてきます。「その教材を使って教えなければならぬことを明確にすること」と「それを超えた、教材の可能性に気づいた子どもを受け止める準備をすること」。教材研究では、この二つをバランスよく満たす必要があると、私は考えています。取り組みときには、次の三点を押さえるとういのではないでしょうか。

1 「教えたいこと」との関係で

まず、教材の特徴や仕組みを、「教えたこと（指導目標）」との関係で捉えるこ

とです。初めにお話した、教材研究の目的の一つ目に関わります。これをはっきりさせないことには、授業ができません。特に説明文では、論理を発見すること、写真や図表の使われ方を理解することを大切にしたいですね。

2 教える以上のことを

次に、教える以上の内容を、自分なりに読み解いておくことです。これは、目的の二つ目につながります。

教材は、教科書での位置づけ以上の可能性を秘めています。授業で子どもの気づきをすくいとるためには、教師が指導目標だけにとらわれない目で、教材の特徴や仕組み、個性を捉えておく必要があります。青山先生が、「自分で分析をしたうえで学習ページを見る」という方法をとったのにも、こうした意図があるのだらうと思います。

3 「一読者」として興味をもって

最後に、素直な気持ちで読んで、教材のおもしろさを教師自身が楽しむことで



高木まさき

静岡県生まれ。横浜国立大学教授。中央教育審議会国語専門部会委員、全国的な学力調査の実施方法等に関する専門家検討会議委員などを歴任する。著書に『「他者」を発見する国語の授業』（大修館書店）など。光村図書 小学校・中学校「国語」教科書編集委員を務める。

す。これは、どちらの目的にとっても大切なことです。教材への興味があるからこそ、細かな特徴にも注意が向きます。「一読者」として、教材そのものを楽しみましょう。一人で取り組むばかりでなく、誰かと共有するのもいい。きつと、自分とは違った読み方に気づくはずですよ。

（談）

単元の導入で、子どもを揺さぶる

今回は、デジタル教科書に収録されている動画や写真、ワークを効果的に使って単元の導入で、子どもたちの学ぶ意欲や関心を高めるような活用のしかたをご紹介します。

1 主体的な学習を促す「揺さぶり」

教師自身が「今日の授業はよくできた」と思える授業とは、教師主導の流れに沿って児童が反応し、時間内に学習をまとめることができたものを指すことが多いのではないだろうか。学習内容を効率よく児童に伝えるという点では、これはよい授業といえるかもしれません。

ただ、グローバル化・情報化が進化したこれからの時代を生きる子どもたちの資質・能力を育てるためには、彼らが主体的に学習に取り組めるような授業のあり方が求められます。

つまり、子どもたちが自ら進んで考え、主体的に判断したり表現したりすることができ、「創造的な学びの場」としての授業です。

2 心を揺さぶる

そうした授業をかなえる要素の一つが「揺さぶり」にあると、私は考えます。授業において、子どもの認識や思考、心情を揺さぶる場面はさまざまあるかと思いますが、今回は、主に単元の導入でデジタル教科書を活用した「揺さぶり」の事例をご紹介します。

(1) 単元の指導目標

◎場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むことができる。

○登場人物の行動を中心に好きなどころを見つけながら読むことができる。

(3) 活用のポイント

集団で学ばいっばんのよさである「人との関わり合い」を経験することができる、一年生のこの時期にふさわしい単元です。本教材は、物語の登場人物と自分を重ね合わせて、楽しい場面を想像す

(2) 単元の指導計画（全八時間）

▼第一時

学習の見通しをもつ。

▼第二時

教材文を読み、あらすじを捉える。

▼第三～六時

音読を楽しむ。

▼第七時

音読を発表し合う。

▼第八時

学習を振り返る。

ここで活用！

るのに適しています。空に現れた「くじらぐも」と二年二組の子どもたちとの心温まる交流を描いた本教材を大切に扱い、単元導入で、いかに子どもたちの想像を膨らませるか、工夫を重ねてこられた先生方多いと思います。

かくいう私も、同学年の先生と協力し、何日かかけて、段ボールと大量の綿とで大きなくじらの雲を作ったり、雲がぼつかりと浮かぶ晴れの日を待ち、子どもたちと校庭に出て雲を観察したりしたことがあります。前者には手間と時間がかともかかり、後者には、運を天に任せる覚悟が必要でした。

そこで、指導者用デジタル教科書（※）の「ワーク」（「はじめに②」）に収録されている写真と、挿絵を活用して、子どもたちを想像の世界の入り口へといざなう導入のしかたを考えてみました。

ワーク「はじめに②」には、三枚の写真が収められています。三枚とも使っても、選んで、自分で撮った写真と組み合わせさせて使ってもよいでしょう。「何に見えるかな」「この雲に乗って何をしたかな」と投げかけながら、電子黒板で拡大して見せると、子どもたちの想像は広がり、空や雲への興味は高まります。ある日の朝の会のスピーチでは、こんな



▲「くじらぐも」のワーク「はじめに②」

声が聞かれるようになりました。「昨日、アイスクリームの雲を見ました。雲に乗って、なめてみたいと思いました」「私は、大きなトラックみたいな雲を見つけました。それに乗って、遠くまで行ってみたいと思いました」。子どもたちの心が揺さぶられ、雲に乗って大空を進む、「くじらぐも」の世界へと入っていく準備ができたといえるでしょう。

3 感覚を揺さぶる

きょうみをもったところを中心に、しゅうかいしゅう「ウナギのなぞを追って」（四年下）――

(1) 単元の指導目標

◎事実と考察の関係を押さえて読み、自分が興味をもったところ、感心したところを中心に文章を要約したり引用したりして紹介することができる。

○文章を読んで考えたことを発表し合い、感じ方の違いに気づくことができる。

※デジタル教科書は、電子黒板等に拡大提示する「指導者用デジタル教科書」と、児童・生徒一人1台のタブレット端末で使える「学習者用デジタル教科書」とに大別される。

(2) 単元の指導計画 (全八時間)

▼第一・二時

教材文を読み、学習の見通しをもつ。

ここで活用!

▼第三～五時

内容を整理し、本文を二百字程度で要約する。

▼第六～八時

紹介文を書き、それを読み合って、友達と自分の考えの相違点と共通点を明確にして感想を伝え合う。

(3) 活用のポイント

食べ物としてのウナギを知ってはいいても、そのウナギが、産卵のために遠くマリアナの海まで回遊するという事実を知る子は少ないでしょう。そして、その産卵場所を突き止めるための、研究者たちの長期にわたる努力について知る子は、もつと少ないはずです。だからこそ、本教材を通してそれを知ったときの驚きや感動は大きなものとなります。

しかし、もともと生き物に興味・関心の薄い子に、その驚きや感動を味わわせることは、時に難しくもあります。子どもたちの知的好奇心を刺激し、本教材への興味・関心を引き出したい——そう思い、単元導入で、子どもたちの興味・関

自分の考えをもつ。

▼第三・四時

自分の考えをもちながら「時計の時間と心の時間」を読む。

ここで活用!

▼第五～七時

筆者の主張に対する、自分の考えをまとめて発表し、考えが多様であることを確認したり、事例と考えの関わりについて確かめ合ったりする。

(3) 活用のポイント

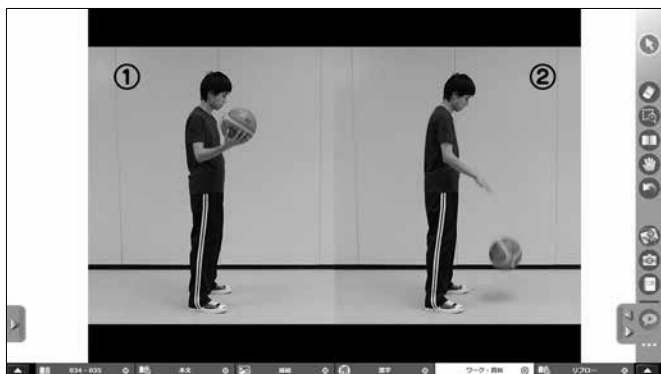
本教材は、平成二十七年版教科書で新しく掲載された新教材です。題名だけを見ると、「時計の時間」と「心の時間」が対比的に説明されているとも思えます。しかし、「中」での事例の挙げ方や「終わり」で述べられていることに着目すると、筆者が、両者を対比的に捉えているのではなく、相補的に捉えながら「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合う知恵が必要だ」と主張していることが分かります。文章を主体的に読みながら、子どもたちがそのことに気づき、筆者の考えに対して自分の考えをもつことができるような授業の展開を考えたいものです。



▲「ウナギのなぞを追って」のワーク「はじめに」

心を引く工夫をしてみました。

「ワーク」に収録されているワーク「はじめに」の写真「広い海の様子」と「ウナギのたまご」。それから、ウナギの卵とはほぼ同じ大きさ、一・五ミリメートルほどのビーズを使います。このビーズを手にとって観察したり、卵の大きさである一・六ミリメートルをものさしで測ったりしたうえで、写真から海の大きさをイメージさせます。そして、「この大海原で、一・六ミリメートルの卵を見つかるのに、どのくらいの時間がかかったか



▲「時計の時間と心の時間」のワーク「はじめに②」

ろう」という予想を立てさせました。

当初は、それほど大仕事とは捉えていなかった子どもたちだったのですが、海や卵の大きさを想像することを通して、この調査の難しさに思い至りました。「この海の中からこれほど小さな卵をどうやって見つけるのだろうか」「途中でやめようとは思わなかったのだろうか」と問いをもつて説明文を読むことにつながったように思います。

4 認識を揺さぶる

―筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう「時計の時間と心の時間」(六年)―

(1) 単元の指導目標

◎筆者の主張と事例を利用して、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

○事実と感想・意見などの関係を押さえ、筆者の意図を捉えながら自分の考えを明確にして読むことができる。

(2) 単元の指導計画 (全七時間)

▼第一・二時

学習計画を立てて、事実と意見を整理しながら「笑うから楽しい」を読み、

いて話し合うことで、「時間」に着目したり、実際の長さは同じであるという意外性によって、読みの課題をもつたりすることができま。このことは、子どもたちの主体的な学習につながっていくはずです。

5 実践から分かること

今回は、単元の導入において子どもたちを「揺さぶり」、彼らが「読んでみたい」「疑問を解決してみたい」と思えるようなデジタル教科書活用の実践やアイデアをご紹介します。単元の導入を少し工夫することで、その後の子どもたちの学習意欲や主体性、課題意識は大きく変わってきます。ぜひ、試してみたいだけではないと思います。

また、今回ご紹介したデジタル教科書の資料は、ほんの一部にすぎません。さまざまな収録されている動画や写真、ワークをどう生かすかは、先生方のアイデアにかかっています。まずは、デジタル教科書をいろいろと操作してみて、自分なりの活用のしかたを考えてみるというかもしれません。

小学校では、比べる・分類する・序列化する・類推する・関連づけるなどの思考力を子どもたちに活用させ、課題解決および原理・原則（きまり）を発見させる授業が展開されています。書写の時間でも、子どもたちを主体とした学びを構築し、彼らの目が輝く授業を目ざしたいと考えています。

広島県生まれ。2008年度まで広島県尾道市立土堂小学校に勤務。陰山英男校長在籍の3年間、教務主任として土堂改革に取り組み、数々の成果を上げる。光村図書 小学校・中学校「書写」教科書編集委員を務める。



1 文字の

「原理・原則」とは

(1) 先人たちの知恵の結晶

図1を見てください。これは、絵ではありません。今からおおよそ三三〇〇年前に中国（殷代）で生まれた「甲骨文」と呼ばれる文字です。さて何と読むのでしょうか。そうです。「魚」です。

この文字は、目で見てもすぐに分かるという長所はありますが、複雑すぎて形を覚えるのが大変ですね。筆順も分からないし、書くのに時間がかかりそうです。

そこで、中国の先人たちが長い年月をかけて、試行錯誤を繰り返しながら現在の漢字を完成していったのです。

まず左ページ図2のように、うろこや

ひれを省略し、図3のように、うろこを

四角形に整えて、図4のように、現在使われている形が唐代に完成するまでに、おおよそ一九〇〇年もの年月が費やされています。

漢字を整えて書くための原理・原則とは、多くの先人たちが長い年月をかけて少しずつ完成していった「知恵の結晶」だといえるでしょう。

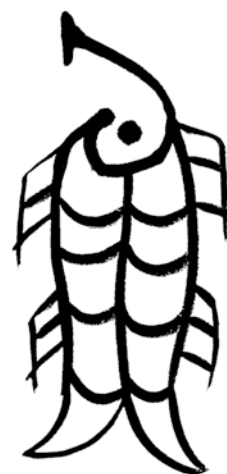


図1

(2) 原理・原則を発見する授業

書写に原理・原則があるのと同様に、他教科にもそれぞれ原理・原則（きまり）といえるものがあります。他教科では、どのような授業を行っているでしょうか。例を挙げてみましょう。

例えば、算数で三角形の面積の求め方について学習するとします。この単元の最初の学習場面で、子ども自身に考えさせることなく、指導者が初めから「三角形の面積＝底辺×高さ÷2」という公式を教えてしまうというような授業の進め方は、現在あまり一般的ではないと思います。

多くの授業では、それまでに学習してきた図形の面積の求め方を応用して考えさせているはずです。その学習過程の中で、子どもたちは自ら、「平行四辺形を二つに分けると三角形になるので、平行四辺形の面積を2で割ったらい。だから、三角形の面積の公式は、『底辺×高さ÷2』だ」などと、発見していくのです。では、書写の時間では、授業がどのように展開されているでしょう。

二年『「おれ」のほうこう』（教科書P12・13）の授業を例に考えてみましょう。このとき、図5が示すように、「縦長四角形の漢字の『折れ』は垂直方向に、

横長四角形の漢字の『折れ』は斜め方向に書く」という原則を、指導者のほうから一方的に子どもたちに教え込んではいないでしょうか。

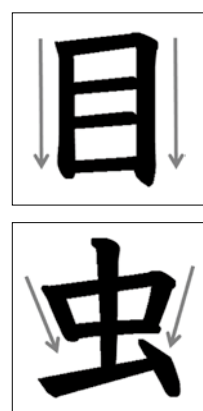


図5

『「おれ」のほうこう』の学習では、図6のような「斜め方向の漢字カード」と「垂直方向の漢字カード」を、子どもたちとともに分類する中で、原則を発見させるという工夫をすることができそうです。このような工夫を重ねながら、教師主体の「書写の原則教え込み」の授業から脱却して、子ども主体の「発見型」授業を目ざしていきたいものです。

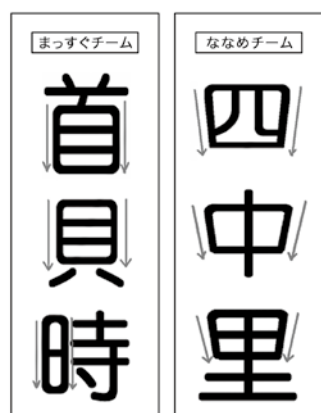


図6

2 「原理・原則」 発見型授業の例

それでは、「原理・原則」発見型授業の具体例をいくつか見ていきましょう。

(1) 左右の組み立て方

「地」という文字を使って「左右の組み立て方」の原理・原則を学習する四年「部分の組み立て方（左右）」（教科書P 14・15）を例に説明します。「左右の組み立て方」の原則には、次の四点があります。

- ①「へん」の右端をそろえる。
- ②「へん」の縦画を右寄りに書く。
- ③「へん」の幅を狭くする。
- ④「へん」の横画を右上がりに書く。

まず、この四つの原則を踏まえ、図7のように、「土」と「つちへん」を比較して、子どもたちに「へん」の工夫を見つけさせます。一人で考えさせるばかりでなく、グループ学習をさせてもよいでしょう。その後、子どもたちが発見した『左右の組み立て方』の原則を板書してまとめます。子どもたちが、「つちへん」の最終画の変化（「止め」↓「払い」）を

発見した場合は、原則⑤として「最終画の変化」を加えてもよいでしょう。これが本時の「ねらい」となります。

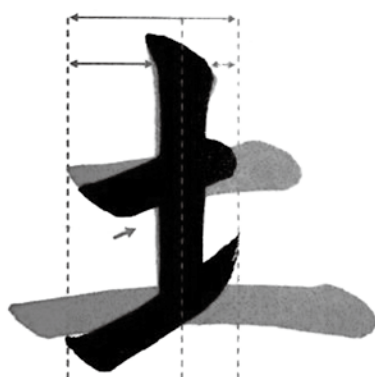


図7

次に、他の「へん」についても、「四つの『左右の組み立て方』の原則」が当てはまるかどうかを確かめます。図8のように、「ひへん」も「きへん」も、四つの原則が全て当てはまっていると考えることが出来ます。つまり、子どもたちが見つけた原則が、「つちへん」だけでなく、他の「へん」にも当てはまるものであると確認できたことになります。



図8

(2) 点画のつながり（「払い」の方向）

「払い（はね）」の方向についての原則は、「次の画の始筆に向かって払う（はねる）」ことです。これを学習するのが、五年「字形を整えて書く」（教科書P 6／図10）です。

この原則を子どもたちに発見させるためには、教科書にあるように、⑦「払い」が次の画の始筆に向かっていない「和」と、④「払い」が次の画の始筆に向かっている「和」とを比較して考えさせると

よいでしょう。そして、子どもが発見した「払い（はね）」の方向の原則」を板書してまとめます。

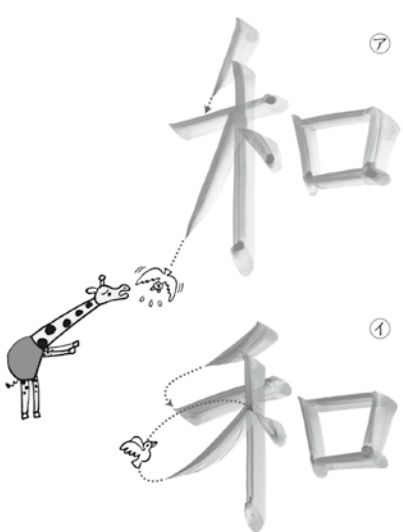
次に、他の文字についても「払い（はね）」の原則」が当てはまるかを確認すること、この原則が、「和」だけでなく、全ての「払い（はね）」に共通するものであることに気づくことが出来ます。

最後に、原理について考えさせます。「どうして、『払い』や『はね』は次の画の始筆に向かっているのでしょうか」と

① 字形を整えて書く

ほ先の動きと点画のつながり 1

字形が整って見えるのは、どちらだろうか。理由も合わせて考えよう。



▼えんぴつで、ほ先の動き（「線」をなぞり、点画のつながりを確かめよう。

★ほ先の動きと点画のつながり
つなぐ気持ちで書く、終筆の方向を定まり、字形が整う。

図10

そして最後に、原理について考えさせます。原理とは、原則の理由に当たるものです。「どうして、『土』が『つちへん』になると、四つの工夫をしなければならぬのでしょうか」と、発問してみましょう。図9のように、「土」のカードと「也」のカードを組み合わせてみると理由が分かります。「四つの工夫」がなければ、「土」と「也」がぶつかってしまうのです。「うまく譲り合って組み立てられている」ということに、子どもたちが気づけるようにすることが重要です。



図9

発問してみましょう。例えば、「のぎへん」の「一画目の「払い」が下方向に向かっていると、横画にぶつかりそうです。さらに、次の画に向かって書いたほうが、流れるように速く書くことができそうです。これらの理由から、「払い（はね）」の方向が決まっているのだと考えることができるでしょう。

3 おわりに

今回は、書写の原理・原則を、指導者による教え込みでなく、子ども主体の発見型の授業に転換していく授業のあり方について提案しました。

こうした授業では、子どもたちに原則を発見させる前に、「試し書き」をさせておくより効果的です。「試し書き」には、学習前の個々の課題が表れており、これを残しておくことで、それまでの自分がいかに原則を意識せずに文字を書いていたかを再認識することができるからです。

子どもたちが意欲的に参加し、自ら考えながら学習できる書写授業をとにつくっていきましょう。

こしみず・かおり
 広島県生まれ。玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授。23年の教員生活の後、港区教育委員会指導主事、東京都教育庁主任指導主事、小学校校長等を経て、現職。光村図書小学校『国語』教科書の編集委員を務める。



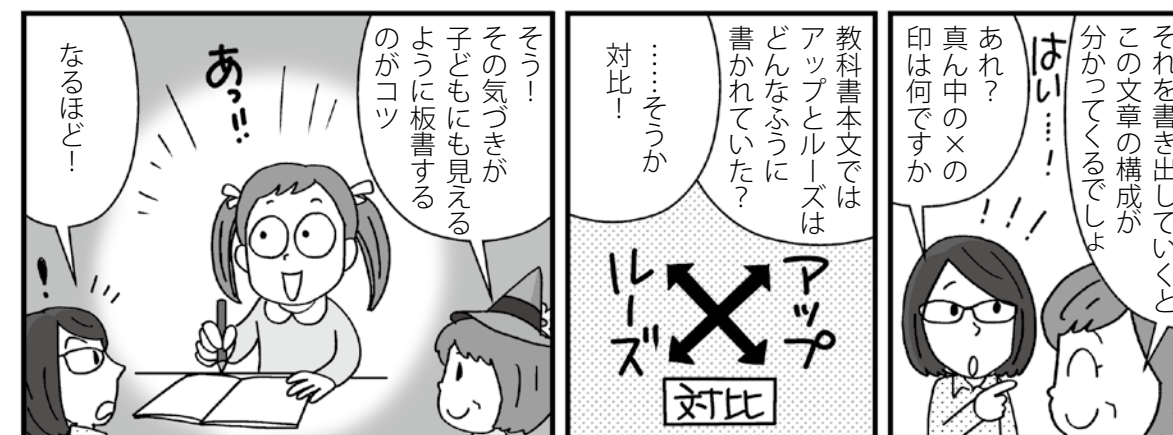
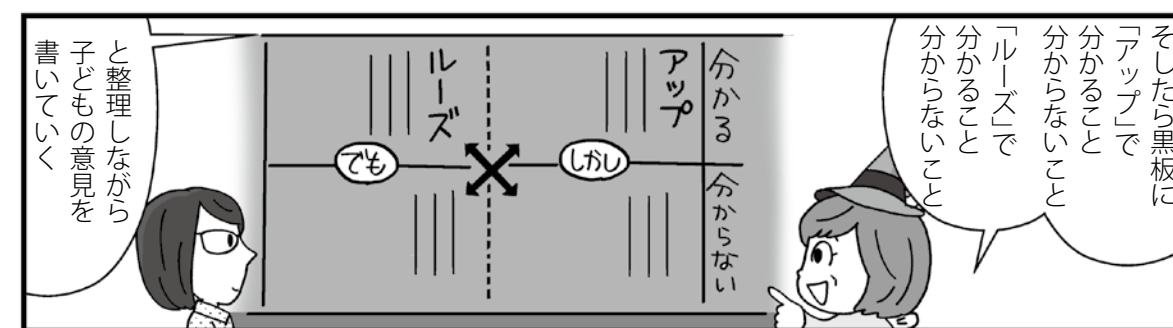
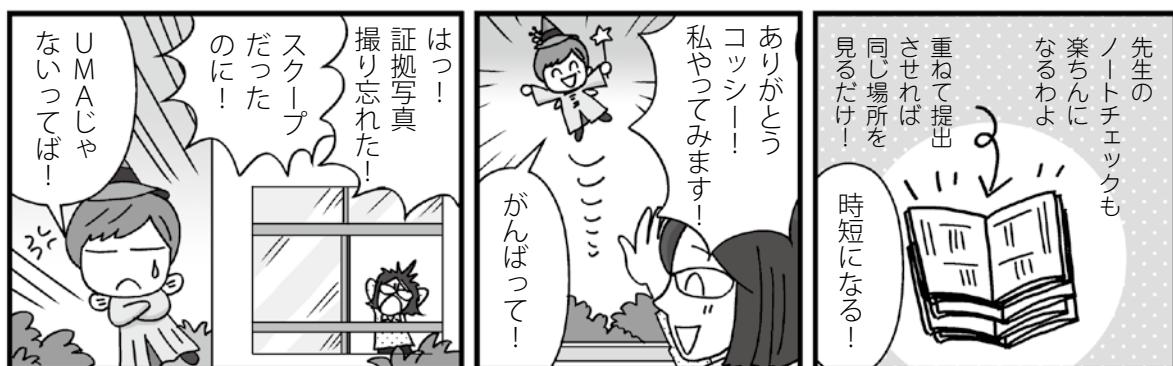
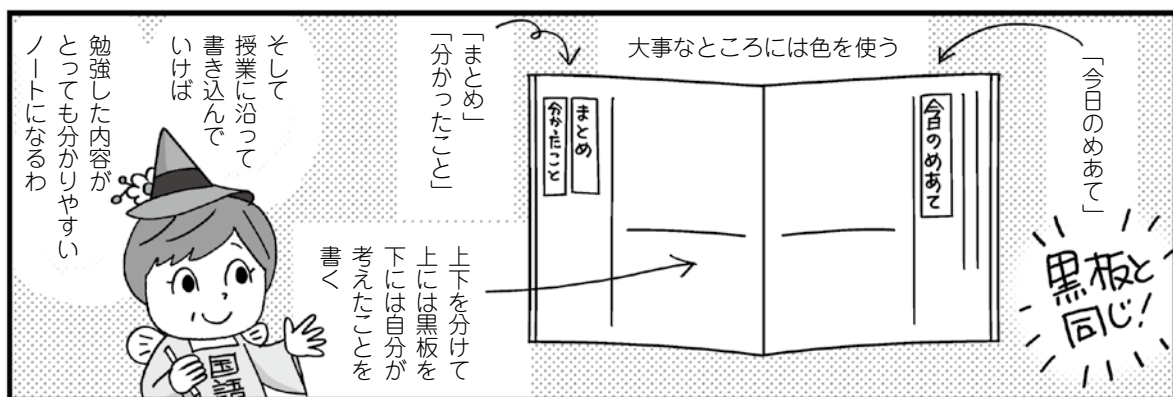
なるほど国語指導

妖精コッチーが教えます 4

ノート指導は板書から！

作・画／あべかよこ 監修／興水かおり





※ すっきりした板書は、確かな教材研究から生まれます。ユニバーサルデザインの視点からも板書計画は重要ポイント。あなたのひと頑張り、子どものノートが大変身しますよ。(コッシー)

教科書の改訂に伴う取り扱い内容の異動に関する資料

四年「ことわざ・故事成語」

学習用資料①②は、小社ウェブサイトよりダウンロードしていただけます。
 (「小学校 国語」>「教科書の改訂に伴う取り扱い内容の異動に関する資料」)

小社『国語』教科書では、平成二十三年度版四年で扱っていた「ことわざ・故事成語」を平成二十七年版から三年で扱うことに変更いたしました。そのため、今年度の四年生に、当該事項を学習していただくための学習用資料をご用意いたしました。

■学習用資料について

- ①教材「ことわざ・故事成語」(本誌P.26・27)
 授業内で扱っていただくことを想定した資料です。一見開きで、ことわざ・故事成語を一ページずつ取り上げました。
- ②ワークシート「ことわざ・故事成語」
 児童の家庭学習などで、補助的にご使用いただける資料です。「ことわざ」「故事成語」をそれぞれ一枚ずつご用意しております。

■で指導にあたって

本資料は、教材の性質上「慣用句」の学習時に合わせて扱うことを想定しております。その際、「慣用句」と同一単元として扱う場合と、独立した二つの単元として扱う場合が考えられます。ここでは、学級や児童の状況に合わせて適宜ご活用いただけるよう、「ことわざ・故事成語」を単独で扱う場合の計画例を示します。「慣用句」の扱いにつきましては、小社『小学校国語 学習指導書 四下』(P.62～68)をご参照ください。

指導計画例

●指導目標

◎長い間使われてきたことわざ・故事成語の意味を知り、生活の中で使うことができる。
 (伝国(1)ア(イ))

●計画例(全二時間)

- 1 教材文を読み、ことわざ・故事成語について知る。
- 2 設問のことわざ・故事成語の意味を調べて短い文を作り、友達が作ったものと比べるなどし、使い方の理解を深める。

●評価規準

- 【関】 ことわざや故事成語に興味をもち、意味を調べようとしている。
- 【言】 ことわざ辞典などを使って、ことわざや故事成語の意味や使い方を調べ、文中で使っている。

用語解説

●教材

さるも 木登りが得意なはずの猿も、木から落ちる
 名入といわれる優れた人でも、時には失敗をすることがあるということ。

石の上にも 冷たい石の上にも、三年座り続ければ温まることから、つらくても我慢してがんばれば、やがてなしとげられるということ。

頭かくして しりかくさず きじが、草の中に頭を隠して、尾が見えているの知らない様子から、悪事や欠点などの一部を隠して、全部を隠したつもりでいること。

五十歩百歩 意味▼ 多少の違いはあるものの、大きな違いではないこと。
 言葉の由来▼ 孟子という人物が、自分の国をよく治めているつもりで王様に、「戦いの場から五十歩逃げた兵が、百歩逃げた兵を笑うことができるか。」というたとえ話をし、自分の国も他の国とあまり変わらないことに気づかせた。

漁夫の利 意味▼ 二人が争っている間に、他の人が苦勞せずに得をすること。
 言葉の由来▼ 蘇代という人物が、ある国を攻めようとしてい

蛇足

意味▼ 必要のないものを加えることで、全体をだめにしてしまうこと。
 言葉の由来▼ 誰が蛇の絵をいちばん早く描けるか、競争した。初めに描き上げた人が、他の人がまだ描いているのを見て、調子に乗って、余った時間で蛇に足を描き足した。すると、「蛇に足はない。」と言われて負けしてしまった。

矛盾

意味▼ 物事の一つづつが合わないこと。
 言葉の由来▼ 昔、中国の楚という国に、矛と盾を売る商人がいた。商人は、「この矛はどんな盾でも突き破ることができる。」と自慢し、また、「この盾はどんな矛でも防ぐことができる。」と自慢していたが、ある人に「その矛でその盾を突いたらどうなるのか。」と言われ、答えに困ってしまった。

ワークシート

ちりも積もれば山となる どんなに僅かなものでも、数多く積み重ねれば、大きなものになるということ。

帯に短し 中途半端で、何の役にも立たないこと。

花よりだんご 美しいものよりも、実際に役立つもののほうがよいということ。

寝耳に水 思いがけない、突然の出来事に驚き、慌てること。

時は金なり 時間は大切なもので、むだに使ってはいけないということ。

良薬は口に苦し 本当に自分のためを思っていてくれる注意や忠告は、聞くのがつらいということ。

先んずれば人を制す 他人よりも先に行動すれば、有利な立場に立つことができるということ。

杞憂 心配しなくてもいいことを心配すること。

推敲 詩や文章の表現をいろいろ考えて、何度も直すこと。

他山の石 他の人や物事の良くないところを参考にして、自分に生かすこと。

言葉 ことわざ・故事成語

「急がば回れ」という言葉を耳にしたことがありますが。この言葉には、急いでいるときは、きけんな近道よりも、遠回りでも安全な方法をとったほうがよいという意味があります。



このように、生きていくうえで のちえや教えを、短い言葉や言い回しで表したものを、ことわざといえます。

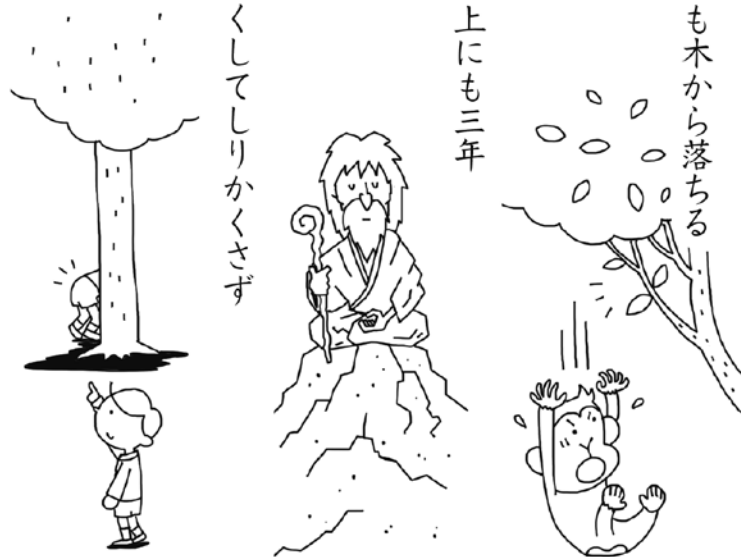
5

ことわざの本や辞典を使って、次のことわざの意味を調べてみましょう。

・さるも木から落ちる

・石の上にも三年

・頭かくしてしりかくさず



5

ことわざにした短い言葉で、昔の中国の話がもとになってできた言葉を、**故事成語**といえます。

・百聞は一見にしかず

意味 人から何度も聞くよりも、一度、自分で見たほうがよく分かるということ。

言葉の由来 ある兵が、王様から戦いに行くことを命じられた。どのような作戦を立てるかたずねられた兵は、

「百聞は一見にしかずです。遠くからでは、

何回知らせを聞いても

戦いの様子は分かりま

せん。馬を走らせて、

近くに行って見てきま

しょう。」と言った。



15

10

・**螢雪の功**
意味 苦労して勉強すること。また、その結果。

言葉の由来 まずしくて明かりにする油が買えないので、夏の夜に螢の明かりで勉強した人がいた。また、同じく油が買えず、冬の夜に雪明かりで勉強した人がいた。後に、二人とも出世した。



次の故事成語の意味も調べてみましょう。

・五十歩百歩

・漁夫の利

・蛇足

・矛盾

10

5

ことわざや故事成語の中には、時代に合わなくなったものや、使い方によって相手をいやな気持ちにさせるものもあります。気をつけて使いましょう。

国語 平成28年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成28年度用1～4年上巻および5・6年教科書では、平成27年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいようをお願い申し上げます。

学年	ページ	行など	27年度	28年度
2年	23	欄外	(挿入)	ペンギン (※「ペ」「ギ」の初出箇所)
	68	上段吹き出し	こうみんかんに、	こうみんかんの <u>そうこ</u> に、
3年	35	上段12	しつもんしたり、	しつもん <u>を</u> したり、
	57	欄外	(挿入) 近所	<u>円</u> い 近所 (※「円」の「まるい」の読みの学習箇所)
	59	下段	分かりやすいなと思ったところは <u>ありましたか</u> 。	分かりやすいなと思ったところは <u>どこ</u> ですか。
	72	8	もう一羽の <u>声</u> も、	もう一羽の <u>こゝろ</u> の <u>声</u> も、
	72	欄外	一羽	(削除)
	72	欄外	はり出したところを、	はり出した <u>所</u> を、
	81	ふりかえろう	新しく発見したりしたことは <u>あり</u> ましたか。	新しく発見したりしたことは <u>な</u> んですか。
	84	下段15	相手の名前の <u>じゅん</u> で	相手の名前の <u>じゅん</u> で
	117	欄外	鉄板 (挿入)	鉄板 羽子板 (※「羽」の「は」の読みの学習箇所)
	119	12	yが <u>く</u> るとき	yが <u>来</u> るとき
	130	上段4	村へとまわって	村へと <u>回</u> って
	62	下段	読み手に <u>伝</u> わるように、	読み手に <u>つた</u> わるように、
4年	88	囲み6	〈中〉理由と	〈中〉理由と <u>ゝ</u>
	122	下段11	・中――理由と	・中――理由と <u>ゝ</u>
	140	3段目	円 エン △まるい	円 エン まるい
	11	3段目5-6	・答える人はひと言ではなく、	・答える人は、 <u>ひと</u> 言ではなく、
5年	38	1段目1	金環日食は日本時間午前7時頃、	金環日食は日本時間の <u>午前</u> 7時頃、
	66	右吹き出し1	<u>わたし</u> も、	<u>ぼく</u> も、
	69	下段6	<u>お見送り</u> しましょう。	<u>お見送り</u> しましょう。 (※「し」まで傍線を引く)
	100	上段5	星のおしゃべり	(おしゃべり) 星のおしゃべり
	148	下段3	<u>示</u> している。	<u>しめ</u> している。
	184	上段5	<u>メディア</u> について	「 <u>メディア</u> 」とは何かについて
	191	下段作例	・実際に料理を教えてもらえる	・実際に料理を教えてもらえる。

	191	下段作例	・体験できる <u>もの</u> がいい。	・体験できる <u>内容</u> がいい。
	192	下段		文末に句点挿入
	249	上段13	「エルダッ <u>ト</u> 」	「エルダッ <u>ド</u> 」
	257	上段左13	<u>たし</u> かめる。	<u>たし</u> かめる。
	266	上段7	思う <u>もの</u> や	思う <u>事物</u> や
	266	下段7-8	風景や様子。	風景や <u>場面</u> の様子。
	279	1段目	<u>52</u> 述	<u>54</u> 述
6年	17	2-3		2・3行目の間を1行空ける
	29	上段9	<u>3</u> 行目	<u>4</u> 行目
	29	上段11	<u>6</u> 行目	<u>7</u> 行目
	48	上段5	最後に何を主張 <u>を</u> するか相談する。	最後に何を主張するか相談する。
	97		「ユニセフ」の <u>ホーム</u> ページ	「ユニセフ」の <u>ウェブサイト</u>
	99	5	その <u>ホーム</u> ページには、	その <u>ウェブサイト</u> には、
	272	1段目		「全」の部首を「人」に変更

書写 平成28年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成28年度用教科書では、平成27年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいようをお願い申し上げます。

学年	ページ	行など	27年度	28年度
3年	34	下段右	ン N n (ローマ字一覧表／5年p.37, 6年p.39も同様)	ン n (ローマ字一覧表／5年p.37, 6年p.39も同様)
4年	12	下段右下	田 (「たいせつ」内の図／2画目の「折れ」が上になっている)	田 (「たいせつ」内の図／後に書いた画が上になるよう変更)
	36	上段	三つ目は、「 <u>読んでいる本の種類</u> 」についてです。 (「ひまわり新聞」3段目)	三つ目は、「 <u>読みたい本</u> 」についてです。 (「ひまわり新聞」3段目)
6年	27	右下	<u>かざはな</u> 風花 晴れた日にちらちらとふる雪のこと。または、山に積もった雪などが、風にくかれて飛んでくるものこと。	<u>かざはな</u> 風花 風に乗って飛んできて、ちらちらとまい落ちる雪のこと。
	35	上段	Shinagawaku (エアメールの差出人3行目)	Shinagawa-ku (エアメールの差出人3行目)

■1・2年p.2～3「じをかくしせい」について

硬筆の場合、机のどこに教科書を置くかは特に決まっておりません。正しい姿勢で書くためには、用紙（ノート）の書いている部分が体の中央よりやや利き手寄りになるように置くことが大切です。教科書はそれに合わせて適宜動かし、机の空いている部分、見やすい部分に置くようご指導いただければと存じます。